

Kazuo Kadonaga
Sculptor

「彼は表現したい
追加による彼のコンセプト
自然への彼の手
たまたま
綺麗な



(翻訳)

日本人アーティスト、 木、紙、絹を使用

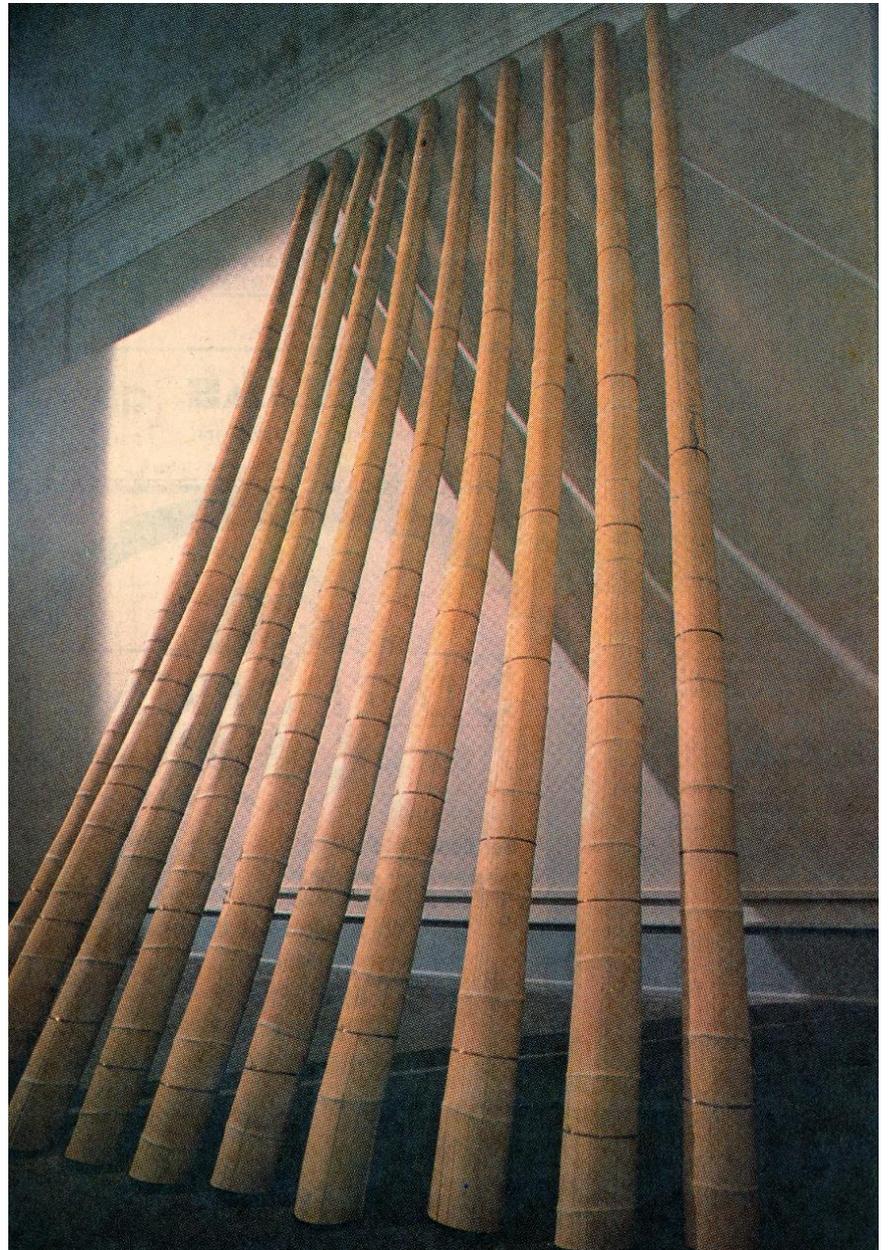
By Alice B. Thomas
Features copy editor

竹の茎、手作りの紙、葉のない木の幹が、アレクサンドリア博物館のメインギャラリーを中庭の外観に変えました。

葉のない、枝のない場所です。そして、バグが少なくなりますが、壁に掛けられた手作りの紙の奇妙な自然で幾何学的な構成にハチが近づくのは驚くことではありません。

目を閉じて、訪問者は手で掻き集められた砂の縞模様と日本庭園の滑らかな小石を簡単に視覚化できました。鮮やかな想像力は、視聴者が流れているストリームの記憶された音に落ち着くことを可能にするかもしれません。竹の茎、手作りの紙、葉のない木の幹が、アレクサンドリア博物館のメインギャラリーを中庭の外観に変えました。

葉のない、枝のない場所です。そして、バグが少なくなりますが、壁に吊り下げられた手作りの紙の奇妙な自然で幾何学的



David Texada — スタッフのカメラマン "Bamboo No. 2D" 竹 No.2D」は角永和夫の竹と銅の彫刻のタイトルです。

な構成にハチが近づくのは驚くことではありません。

目を閉じて、手で掻き集めた砂の縞模様と滑らかな水面を簡単に視覚化できました。*メロディウスの音がありますが、角永和夫さんと妻の由美子さんの優しい声から来ています。

角永は、この庭園の雰囲気を与える作品を持つアーティストです。そして角永は英語を話しません。したがって、彼のアイデアは、「K」が他のすべての音節にあるかのように聞こえる、休止のない急速な日本語で最初に提示されました。彼の言葉は妻によって英語で言い換えられた。

「それは簡単ではない」角永夫人は夫をちらりと見て、「いつでも彼は言葉を変える」と付け加えた。彼女は静かに笑い、角永は彼の妻のやり方に疑問を投げかけるような音を出しました。それから、彼女のコメントを日本語で聞いて、彼は笑って同意しました。角永の襟とオープンネックのグレーのコットンシャツにグレーの靴下を合わせ、ジーンズとモカシンは、彼の基本的な、しかしそれほど単純ではない効果と一致しているように見えました。

日本の芸術家の彫刻は、自然物に対する彼の扱いを中心としています。たとえば、14 フィートの竹の棒は細いスライバーに接合され、壁に寄りかかって、扇形のように広がり、巨大な泡立てほうきのように見えます。また、スライバーを圧縮して銅のバンドで固定し、元の竹の棒を別の形で再現することもあります。これらは、壁にもたれて、光と影の相互作用を可能にする場合もあります。

松の木の幹は削り取って傷をつけ、木のサテン仕上げの隙間をあけます。

杉の切り株は、電気ショックが通過したかのように、一端からジグザグの線が中央から放射状に残っているように見えます。切り株のもう一方の端にある間、まっすぐなカットは表面全体に正方形を形成します。

多くの場合、過酷な処理にもかかわらず、各オブジェクトは手付かずの紙で繰り返される品質の手付かずの原始的な強度を保持します。もちろん、その起源は木材に由来します。それでも、「彼の作品を美しく見せることは彼の意図ではない」と角永夫人は言った。「それは（美）強い意図ではありません。彼は自分のコンセプトを示したいと思っています。自然に手を加えて

自分のコンセプトを表現したい。それはたまたま美しいだけでした。」

彼のコンセプトを定義するにあたり、角永はただこう言うことができました。それは人々が来て、見て、感じているものです。言葉では説明できません。」

コンセプトは言語にとらえどころのないものだったかもしれませんが、方法論はそうでした。角永は通常、木、竹、紙などの素材に1つの技法を使用し、「その素材にアクションを起こすことで、自然の素材とは異なる声を探しています」。

角永夫人は夫に疑い深く目を向け、短期間で彼に短い質問をしました。

「素材の声」と彼女は繰り返し、その考えを強調した。

アーティストは再び話し始めました。角永夫人は彼の方を向いて、小さなパッドの上で熱心に日本語の文字でメモを書きました。

角永氏は、ドローイングを作成しないことを知って欲しかったと彼女は言った。「彼の彫刻を作るために、彼は材料を見て、彼は作業を開始し、それがどのように見えるかを見ます。彼は絵や絵について考えています（それは私よりもはるかに優れている人がたくさんいることです）。「角永の家業は材木で、木は彫刻に最初に使用された材料でした。竹が続き、紙が最後に続きました。

「現在、彼は別の素材に取り組んでいる」と角永夫人は語った。「それで、彼は最初に作業していた木材からある程度離れることで、おそらく将来的には後で戻ってこれることができると思っています。別の見方をした木材。」

角永はガラスを使って仕事をするつもりで、表現したものを決定しています。

「彼は、（彼を許可する）ガラスを表現する何かを作ろうとしている。最初の点（ガラス）は、吹きガラスのようにすでに完全に作られたものではなく、オリジナルなものだ。

「彼自身はそれがどうなるか知らない。」

しかし、彼は新しい素材に移行していますが、アーティストは

ARTIST、C-2 をご覧ください